

企業ニュース UACJ

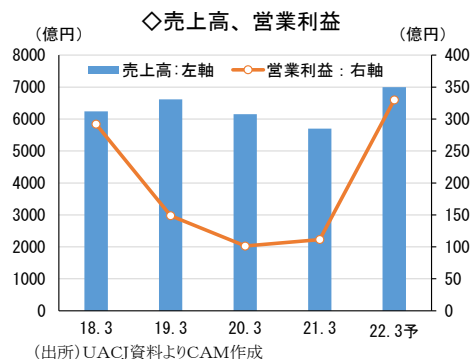
(東証1部 : 5741) <http://www.uacj.co.jp>

作成者: 奥村義弘

世界トップクラスのアルミニウム総合メーカー

2013年、古河スカイと住友軽金属工業が経営統合して発足。アルミニウム等の非鉄金属及びその合金の圧延製品・鋳物製品・鍛造製品並びに加工品の製造・販売等を主業務とする。日本、北米、タイの3極体制。タイに東南アジア唯一の最新鋭アルミ板圧延工場を保有する。21.3期の売上高構成比はアルミ圧延品74%、加工品・関連26%。

22.3期 - 24.3期までの第3次中期経営計画では、構造改革の完遂（稼ぐ力の向上、財務体質の改善、マネジメントの仕組みの強化）、成長への基盤の強化、サステナビリティ推進が重点方針。24.3期の財務目標には、売上高7,000億円、営業利益300億円、ROE7.5%、ROIC（税引き前営業利益ベース）6.0%を掲げる。



アルミ需要増、構造改革の進展で大幅増益

22.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上高が1,738億円、前年同期比30%増、営業利益が132億円（前年同期は営業損失6億円）。アルミ価格の上昇による棚卸評価の改善に加え、東南アジアや北米などでも旺盛な缶需要が追い風となり、販売数量が増加した。ビンやペットボトルからのアルミ缶へのシフトなどが需要を押し上げている。またEV化が進む自動車向けにはアルミ部品などの需要が増加、ミックスの改善が利益貢献した。タイは、東南アジアや北米向けを中心に缶材の旺盛な需要でフル稼働に近い操業となり、コストも削減され損益が好転した。

22.3期の通期会社計画は売上高が7,000億円、前期比23%増、営業利益330億円、同196%増。期初計画から、売上高を400億円、営業利益を110億円上方修正した。新型コロナウイルスの感染拡大による操業への影響がリスク要因だが、缶材は北米向け輸出の好調が続いている。押出品、箔、鋳鍛製品等の需要回復も寄与する。また、アルミ価格の上昇で、棚卸評価が膨らむ。操業度改善によるコストダウンも寄与する。国内では最適生産体制の構築が順調に進捗、品種構成が改善するなど、構造改革も順調に進んでいる。

[株価動向・投資判断]

大幅上方修正の決算発表が株価の刺激材料となった。アルミ需要は引き続き旺盛で下期の上振れ期待も温存されている。

<5741 UACJ 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	615,150 (▲7)	10,126 (▲32)	3,788 (▲39)	2,038 (83)	42.3	20.00
21.3	569,756 (▲7)	11,144 (10)	5,958 (57)	▲3,269 (—)	▲67.8	0.00
22.3 予	700,000 (23)	33.000 (196)	25.000 (320)	12.000 (—)	248.8	40.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/9/10)	2,983 円
年初来高値 (高値日)	3,050 円 (21/8/6)
同 安値 (安値日)	1,828 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	12.0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	4,071.2 円
P B R	0.73 倍
予想配当利回り	1.34 %
(1株当たり配当金 40.00 円)	
ROE (21.3)	▲ 1.8 %
発行済み株式数	4,833 万株